

# これが、メネデールのプロフィール。

植物活力素メネデールは、植物の生命の研究から生まれた  
農園芸用の二価鉄イオン水溶液(鉄イオン水)です。

## これが、二価鉄イオン( $Fe^{++}$ )の働き!

### その ①

植物の生長に必要な物質は、主に根の根毛からイオン化された形で吸収されます。メネデールは、はじめからイオン化されているため、極めてよく吸収され、根の成長部分の生育を助けるとともに、光合成に必要な水分や養分を送り届け、みずからも光合成を活発にする働きをします。

#### この働きが、こんな時に効果を発揮!

- 植えつけ時の発根や活着の促進
- 弱った植物の草勢・樹勢の回復
- 室内の観用植物などの光合成の促進

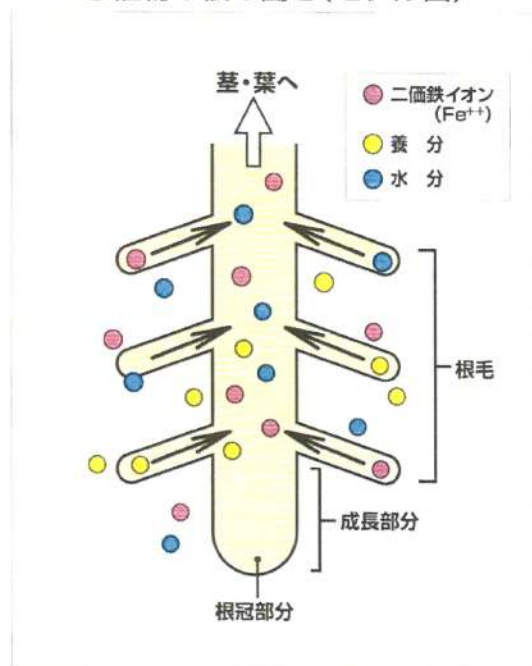
### その ②

メネデールは、植物の切り口や傷ついた部分からにじみ出る物質と結合して膜のようなものを作り、切り口を保護し、同時に水分や養分を吸収する細胞膜の代わりにします。

#### この働きが、こんな時に効果を発揮!

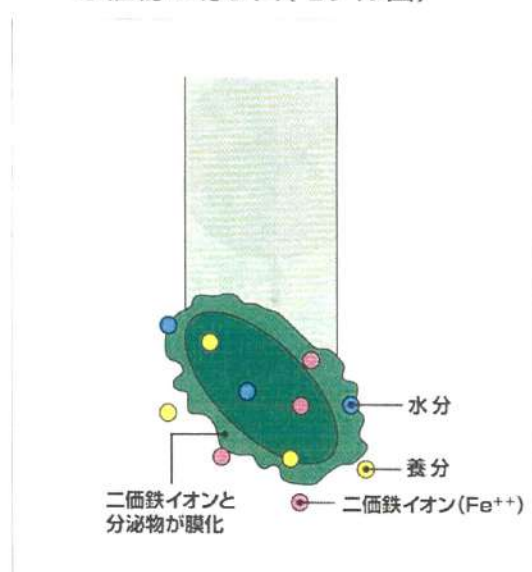
- さし木・さし芽・とり木などの発根促進
- 植え替えや株分け時の活着促進
- 切り花の水あげ促進

#### ●植物の根の働き(モデル図)



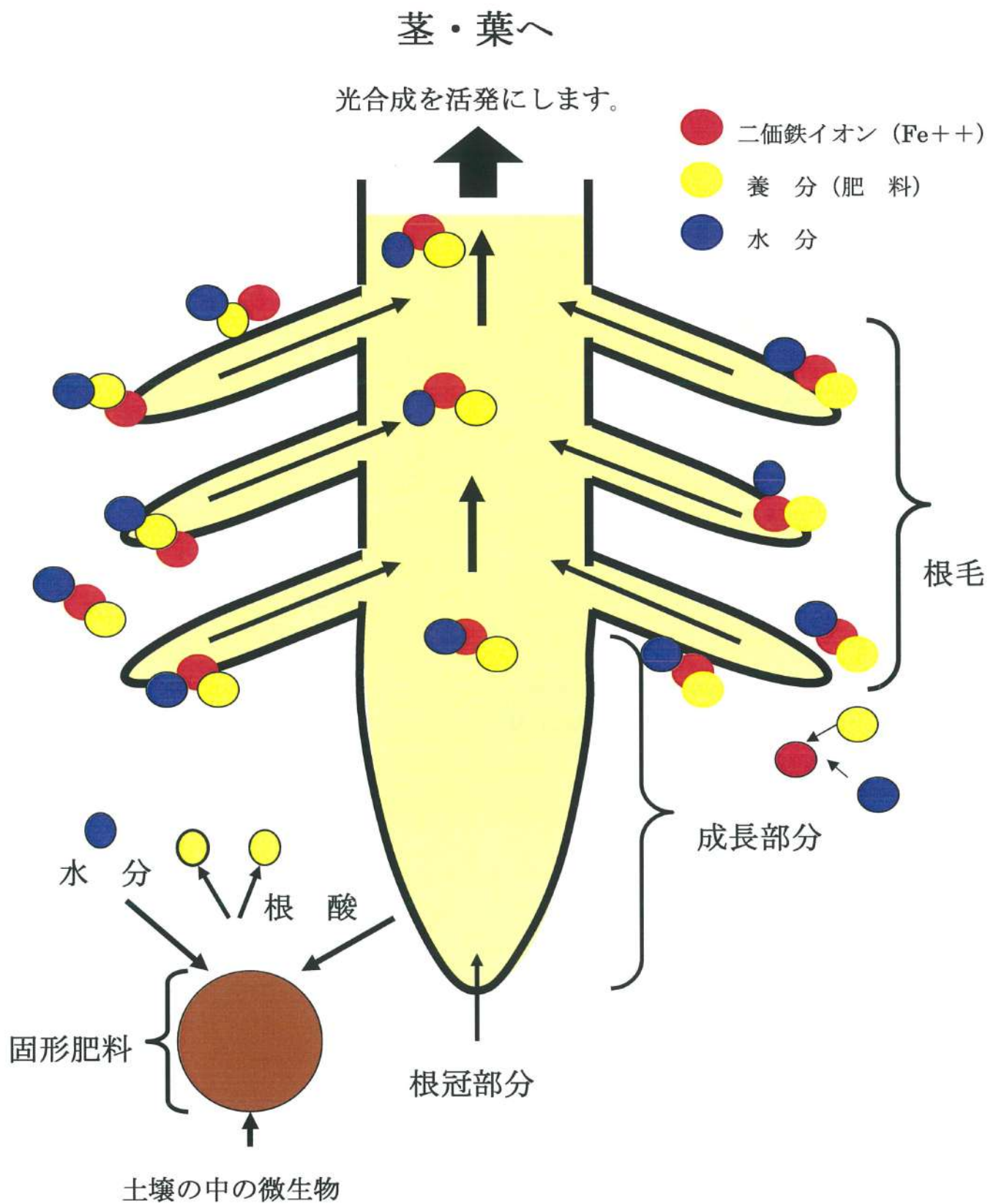
上の図は、わかりやすく簡略化した模式図であり、実際とは異なる場合があります

#### ●植物の切り口(モデル図)



上の図は、わかりやすく簡略化した模式図であり、実際とは異なる場合があります

# 植物の根の働き (モデル図)



二価鉄イオンは、浸透性が極めて良く根毛や成長部分の細胞分裂を活発にし、水分・養分を抱き抱えて葉、茎へ運び光合成を活発にします。

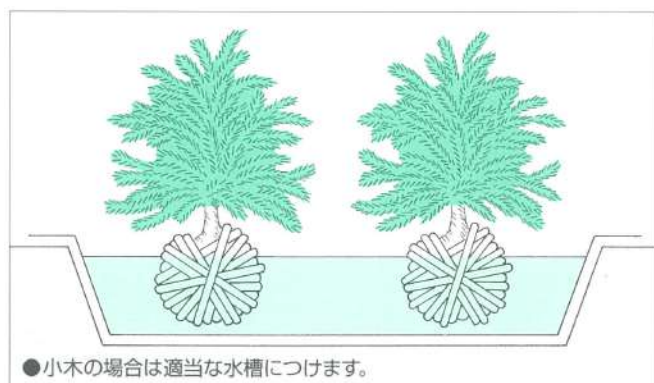
# メネデール使用説明書

## 樹木・造園編

### 1. 根回しおよび養生に際して

(1) 根回しが終わった後、なるべく早くメネデールの100倍液をハチ(根部)全体に十分しみこむように少量ずつゆっくりとていねいにかん注します。小木の場合は、適当な水槽(貯水槽などを利用するか、応急の場合は、ビニールシートを用いて小さな池を作ります)にメネデール100倍液を満たし、その中へ根回ししたハチをつけます。何本かの木を次々この方法で浸漬処理すれば、経済的で能率も上がります。もちろん、吸収その他により減量した分は補充してご使用下さい。

(2) 根回しが終わった後、一定期間その場所で養生する場合は、当初は10日に一度位の割合でメネデール100倍液を(1)の要領でかん注します。長期間養生する場合には、樹勢により適宜の間隔で、100倍液をかん注します。場所を移して仮植する場合も同じです。



### 2. 輸送に際して ●前日頃に十分しみこませておきます。

輸送に際しては、なるべくその前日頃にメネデール100倍液を十分にハチにしみこませておきます。到着後も同様の処理をしますが、輸送途中にも処理できれば理想的です。

### 3. 植樹に際して ●植え終わったら直ちにかん注します。

(1) 木を植え終わったら、直ちにメネデール100倍液をかん注します。また、植え穴にあらかじめメネデール溶液を満たした後、植え込んでも結構です。

(2) 活着確認までの管理には、樹勢に応じて適宜の回数、メネデール100倍液のかん注を続けて下さい。

(3) 移植不適期や、さらに確実性を増す場合は土壌かん注と並行して直接樹幹へ注入する方法があります。この場合は、「メネデール樹幹注入液」をご利用下さい。

### 4. 樹木の管理に際して

平素の養生・管理には、樹勢に応じてメネデール100～200倍液を施用して下さい。

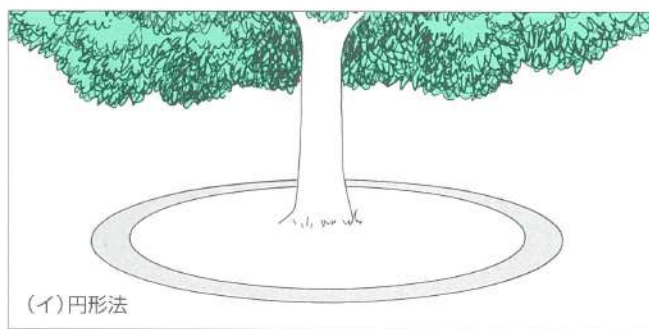
### 5. 衰弱木には

#### かん注法 (メネデールを根元に注ぐ方法)

根の回りに溝を掘り、その中にメネデール溶液を注ぐ方法ですが、立木や周囲の状況により、次の方法から適当なものを選びます。

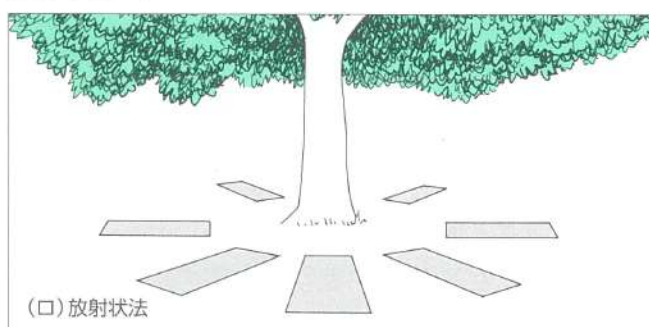
#### (イ) 円形法 (根の回りに幹を中心として円形に溝を掘る方法)

比較的小さな木や周囲に障害物の少ない場合に用います。幹に近い所には吸収根(細根)が少ないのが普通ですから、十分に生育した木では、根元を中心として、枝の先端から地上に垂直線を下した地点を外周の一点とした円形の溝を掘ります。溝幅は小木で10cm内外、大木で20cm内外とし、深さは普通10～15cm、大木で20cm位が適当です。冬季は溝を広めに、夏季はなるべく狭くして下さい。溝幅、深さは以下の各法もこれに準じます。



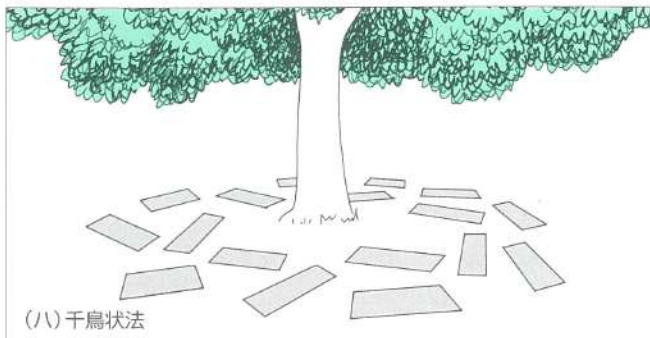
#### (ロ) 放射状法 (根の走向にそって、幹を中心として大体放射状に溝を掘る方法)

吸収根の周辺土表を、なるべく根を傷つけない様にていねいに掘ります。溝幅は(イ)に比較して、かなり狭くなる様ご注意ください。



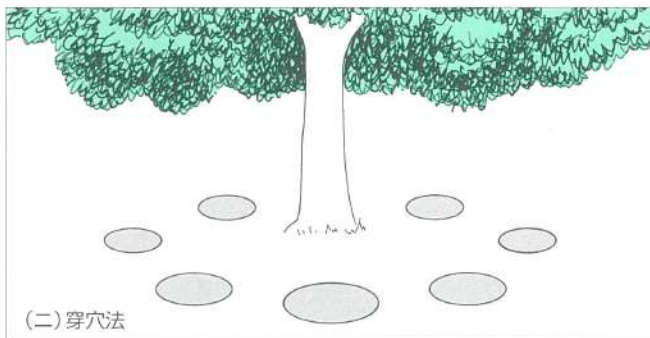
## (ハ) 千鳥状法

大体(ロ)と同じ方法ですが、障害物や起伏の多い場所では溝を短く、千鳥状に数多く掘ります。



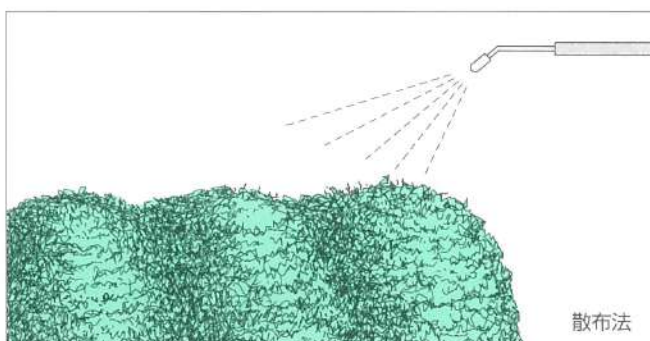
## (ニ) 穿孔法 (吸収根の周辺に穴を掘る方法)

特に根の深い木や密植地には、図の様に所々に穴を掘り、その中に注入します。穴の深さはメネデル溶液が容易に吸収根の周辺に浸透できる程度とし、穴の数・広さ等は状況に応じて増減して下さい。



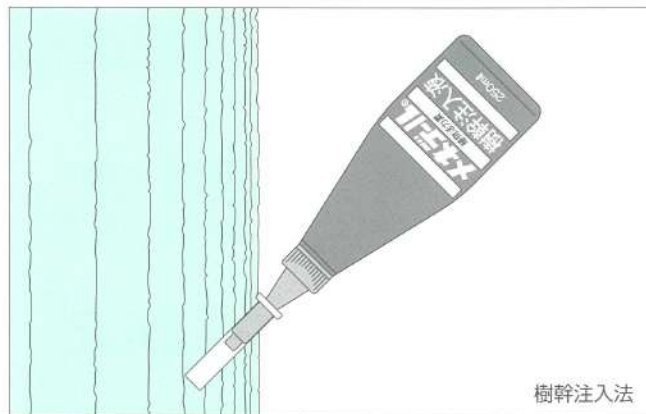
## 散布法 (メネデル溶液を苗床、仮植床、密植地、あるいは盆栽、鉢植等の小さな木に散布する方法)

主として前記幼木の育成地または小木に用いる方法でメネデル100倍液を露地または葉面に散布します。葉面には噴霧器を用いて散布して下さい。露地散布の場合は、あらかじめ軽く耕しておき吸収を容易にします。散布量は葉面では全葉の表裏にまんべんなく液が密着する程度、露地では表面が十分にぬれる程度です。



## 樹幹注入法

衰弱の激しい樹木には、土壌かん注と並行して「樹幹注入法」を行います。また、周囲の状況により土壌かん注が不可能な場合もこの方法を用います。この場合は「メネデル樹幹注入液」をご利用下さい。



## 6. 張芝工、法面緑化に際して

張り芝工の場合は、張りつけ直後メネデル100倍液を1m<sup>2</sup>当り約3ℓを全面に散布します。以後は草勢に応じて同様の散布を反復して下さい。播き芝の場合も同様ですが、芝をあらかじめ100倍液に浸漬(数時間)してから播くと効果的です。法面緑化で種子直播きの場合は、あらかじめ浸漬(100倍液に1昼夜)した種子を用います。

## メネデルの標準施用量

### ① 植樹の場合

根鉢容量の約10パーセント量

### ② 衰弱木の場合

胸高直径による標準的な施用量を目安とします

例  
根鉢容量1,000リットル  
▽  
10パーセント量で100リットル  
(100倍液)  
▽  
原液は1リットル

胸高直径 (cm)	標準施用量 (mℓ)
10	250
15	500
20	1,000
25	1,500
30	2,000
40	3,000
50	4,000

※ 根鉢容量が不明のときは②の胸高直径による標準量を援用します。

※ 上記の量の原液を通常100倍にうすめてお使い下さい。

## 使用上のご注意

- ①メネデルは無色透明の溶液です。なるべく冷暗所に原液のまま保存し、ご使用の都度必要量をうすめて下さい。うすめた溶液は保存せず、必ず使い切して下さい。
- ②液肥との混用は出来ませんが、農薬との混用はさけて下さい。
- ③メネデルは肥料・農薬ではありません。

メネデル株式会社

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9 ☎(06)6209-8041

<http://www.menedael.co.jp>